

へんしゅうにん ^{とくていひえいりかつどうほうじん} 編集人 特定非営利活動法人 ^{かぜききんじむきょく} ゆめ風基金事務局

^{おおさかしひがしよどがわくひがしなま}
(〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106) TEL06-6324-7702

^{かぜ} ゆめごよみ風だより ^{ごう} 102号

いんでつくす
INDEX (みだし)

- 01 ^{かみお} 神尾さんがとつぜん ^{たかい} 他界された！ ^{ふしぎ} 不思議な縁(えにし)を ^{しの} 偲びつつ
- 03 ^{おおふなとちゅうがくせい} 大船渡中学生プロジェクト
- 04 ^{ひさいちほうこく} 被災地報告 ^{ふくしまけんおきじしん} 福島県沖地震
- 06 ^{さいがい} リレーエッセイ 災害と ^{しょうがいしゃ} 障害者 ^{だい} 第75回 ^{かい}
- 08 ^{おうえんだん} 応援団からこんにちは！ vol.4
- 09 ^{かぜばんびーしーびー} ゆめ風版 B C P
- 10 ^{だんたい} カンパをいただいた ^{じむきょく} 団体/事務局の ^{うご} 動き
- 11 ^{かいけいほうこく} 会計報告

^{かんとうげん} ^{ページ}
巻頭言1、2 P

^{かみお} 神尾さんがとつぜん ^{たかい} 他界された！ ^{ふしぎ} 不思議な縁(えにし)を ^{しの} 偲びつつ

^{りじ} 理事 ^{まきぐち} 牧口 ^{いちじ} 一二

^{ねんいじょう} 20年以上も ^{せわ} お世話になりながら ^{かみおきょうこ} 神尾京子さんの ^{ねんれい} 年齢を ^{せいかく} 正確には ^し 知らない ^な ままだった。亡くなら
^{すんぜん} れる寸前の ^{さいご} 《最後のごあいさつ》には ^{じんせい} 「人生60年、 ^{ねん} 長くは ^{なが} ないが、 ^{みじか} 短くも ^{ろうご} ない。老後が ^な なかった

のは残念だ。国内も海外ももっと旅行がしたかった」とある。一昨年、カタログハウス社を辞されると聞いたとき、「最愛の T さんと思いつ切り世界旅行を愉しんでください」と労ったのを思い出す。何かにつけて“ゆめ風”を支えてくださった人なのだ。できるだけ表面に出ない控えめな本当の実力者、縁の下の力持ちが非常に多い“ゆめ風”の中で最初に勢いをつけてくれた人だった。

神尾さんに初めて出会ったのは 23 年前の初秋ごろか、約束もなく突然に、大阪・天満橋北詰でデザイン科卒 4 人で営む、ちっぽけなデザインスタジオ“おぼけ箱”に来られて、「こんにちは！カタログハウスの神尾と言います」とニコリ。名刺には東京・渋谷とある。「カタログハウス社」はもとより『通販生活』誌の存在も知らないボクはキョトン!? 神尾さんは続けて「ゆめ風基金の呼びかけ文を読みました。で、カタログハウス『通販生活』の 130 万人読者に呼びかけてカンパ活動のお手伝いをしたくて……」と。ボクはよく呑み込めないままビックリ仰天（正直いうと失礼にも、詐欺かと身構えるほどに）。なんと不思議な縁（えにし）なのだろう。

ゆめ風基金が発足して 4 年半のころ、海外の障害者も支援できるようになって、やっと 1 億 5 千万円ほどをプールできたところだった。神尾さんは「『通販生活』に振替用紙を綴じこんで読者に呼びかけてみます」と言われた。聞けば『通販生活』は年 4 冊の季刊誌で、チェルノブイリの母子支援募金を 1990 年からやっていて 9 年目の現在、総額 2 億 3 千万円を届けたところとのこと。思わず「ウォ～！」と声を発してしまった。あらためて恐縮し、「いただくお金は大切に大切に活用いたします」とタドタドしく告げると、「お金はどんどん活用しないと意味がありませんよ」とまたまたニコリの神尾さん。その通りです、お金は川の流れるごとく天下の隅々に巡らないといけません。途中で止めているのは、誰だ！

出会いは大切な縁の始まり。こうした不思議な縁はなおも続いた。発足した時もそう。本気の
本気で呼びかけ人代表を引き受けてくださった永六輔さんが7年目にお連れを亡くされて新たな
運動がしたいと、呼びかけ人代表を10年で辞されることになった。そのことは尊重しつつも困
ってしまう。永さんからのバトンタッチは難しそう、だが意外に早く見つかった。“ゆめ風”活動
の言い出しべえ、相棒の、今は亡き河野秀忠がある日ある時に北海道での選挙関係の集いで小室等
さんと出会い意気投合し、以後お付き合いを続けていた。善は急げと2人で小室さんの懐に飛
び込んだというわけ。これを知った永さん、「小室さんが代表を引き受けてくれるなら権代表と
して残るよ」と。（「権」には「副」の意もあるという）。これも不思議な縁。

まだある。じつは小室さん、1992年と1994年に神尾さんと関係者数人でベラルーシま
で旅をされている。むろんチェルノブイリの母子支援をより広げる目的の旅。その頃の神尾さん
は30歳そこそこの絶頂期、「目を見張るほどの活躍ぶりだった」と小室さん。“ゆめ風”が神尾さ
んと出会う7～9年前のことだ。そのことをまったく知らずに小室さんに声をかけて呼びかけ人
代表をお願いしていたわけだ。なんという不思議な縁だろう！ 人が人を呼ぶという、そんなつ
ながり仲間の1人ひとりであってほしいと心から願う。

神尾さんのちょっとしたエピソードをご紹介します……《最後のごあいさつ》の中の、「わたし個人で
は絶対に会えない著名人に会って話を聞いたり、原稿をいただいたりといった経験もさせてもら
った」という箇所から頭に浮かんだシーンなのだが、カタログハウス社の2階から1階ロビーを
なんとなく眺めていたら、横長のソファで野坂昭如さんと神尾さんが話してる……ボクのまった
く勝手な妄想だけれど、野坂さんのグチを丁寧に頷きながら聞いている風に想えたんだ。今の地球
への予告のグチだったのか、知りたかったなあ……

おおふなとちゅうがくせい
大船渡中学生プロジェクト

じむきょくいん あべ しゅんすけ
事務局員 阿部 俊介

ねん がつ にち いわてけんおおふなとし おおふなとちゅうがっこう 「ちゅうがくせい
2022年11月18日に、岩手県大船渡市にある「大船渡中学校」で『中学生プロジェクト』の

じゅぎょう わたし ふくしまよしひろ こうどう しょうがいしゃおうえん おこな おおふなと
授業を私と福島義弘さん（おおさか行動する障害者応援センター）で行いました。大船渡

ちゅうがっこう ねん ぼうさいじゅぎょう ぼうさい いわてだい ふくとめくにひろきょうじゅ
中学校では2018年から防災授業をしており、その防災アドバイザーの岩手大・福留邦洋教授

きょうどうけんきゅうしゃ わせだだい こやましゅうたろうじゅんきょうじゅ ちゅうがくせい
と、共同研究者の早稲田大・古山周太郎准教授から『中学生プロジェクト』をやってほしいと

いらい
依頼されました。

しやう しゃ ひさいけいけん にちじょうせいかつ じゅぎょう わたし くるま せいかつ
まず「障がい者の被災経験と日常生活」の授業では、私がなぜ車いす生活になったのかの

せつめい ひがしにほんだいいんさい ひさい ご ひなんさき しんせき おば いえ にん ほんとし かこく ひなん
説明と、東日本大震災で被災し、その後、避難先の親戚の叔母の家で14人で半年ほど過酷な避難

せいかつ おく はな
生活を送ったことなどを話しました。

つぎ じゅぎょう こうない こうない せいと ある
次の授業では、校内のバリアフリーチェックをしました。校内を生徒と歩きながら、

とうほく おおさか くるま せいかつ ちが おおさか しょうがいとうじしゃ うんどう かんきょう ととの
東北と大阪の車いす生活の違い、大阪では障害当事者がいろんな運動をして環境を整えてき

くるま おお じりつせいかつ がいしゅつ はな くるま
たこと、車いすユーザーの多くが自立生活をしたり、外出していることを話しました。車い

かか はじ せいと おお くるま かいわ むずか かん
すの人と関わることが初めての生徒も多く、「車いすの人＝会話が難しい」と感じていたけれど、

じっさい あ ちが
実際に会ってみると違っていたということでした。

くるま の こうれいしゃ おも せいと おお
車いすに乗っているのは高齢者だけだと思いこんでいる生徒が多かったです。

わか せだい ひとたち くるま ひとたち し こんご がんば った
これからも若い世代の人達に車いすの人達のことを知ってもらえるように、今後も頑張っ

おも
えていきたいと思えます。

災害弱者の避難 ともに

インクルーシブ防災授業



東日本大震災で死者・行方不明者419人を出した岩手県大船渡市の小中学校2校で、防災授業があった。大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた。【奥田伸一】

インクルーシブ防災は、2015年に仙台市で開かれた国連の防災世界会議を機に広まった。インクルーシブは英語で「包括的」を意味し、障害者や高齢者など避難困難者を含む全員の安全確保を目指す。震災では死者の半数超が高齢者だったほか、障害者の死亡率は全人口比の2倍だったとされ、その理念は重要度を増している。

大船渡中では18年から防災授業を継続。今回、同校の防災アドバイザーを務める岩手大の福留邦洋教授と、共同研究者早稲田大の古山周太郎准教授

岩手・大船渡 校内の段差確認

車いすの部品をばらばらに分解して、段差を乗り越える大船渡中学校の生徒。岩手県大船渡市で

からの提案で、インクルーシブ防災を取り入れた。福留教授によると、中学での実例としては珍しいという。今月18日の授業は障害者らによる講義からスタート。3年生88人は、大阪から招いた身体障害者や地元の見学施設運営者が語る。震災体験に目を傾けた。車いす利用者で大船渡市の岡部俊介さん(39)は高城原石巻市出身。震災で1年に及んだ避難生活を振り返り「普段から災害時の持ち出し品を準備して」と訴えた。障害者のクートホームなどを運営する地元NPO法人「さんぽく・こすぽ」の新沼節子理事長(61)は「震災後に生活環境が変化した。避難先を確保できなかったら、命が危ない」と訴え、町の様子をカメラに収めた。授業では当日の状況を説明し、避難先を確保できなかったら、命が危ない」と訴え、町の様子をカメラに収めた。授業では当日の状況を説明し、避難先を確保できなかったら、命が危ない」と訴え、町の様子をカメラに収めた。

津波の怖さと避難の大切さを訴えた。奥田伸一は、大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた。【奥田伸一】

津波の怖さと避難の大切さを訴えた。奥田伸一は、大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた。【奥田伸一】

津波の怖さと避難の大切さを訴えた。奥田伸一は、大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた。【奥田伸一】

津波の怖さと避難の大切さを訴えた。奥田伸一は、大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた。【奥田伸一】

まいにちしんぶん ねん がつ にちけいさい
毎日新聞2022年11月26日掲載

きじないよう 記事内容

災害弱者の避難 ともに

インクルーシブ防災授業

東日本大震災で死者・行方不明者419人を出した岩手県大船渡市の小中学校2校で、防災授業があった。

大船渡中では、障害者ら災害弱者の安全確保を図る「インクルーシブ防災」の学習の一環として、3年生が廊下の段差など移動に支障がある箇所を点検。赤崎小では

震災当日の市内を撮影した男性が、6年生に津波の怖さと避難の大切さを訴えた（奥田伸一）

岩手・大船渡 校内の段差確認

インクルーシブ防災は、2015年に仙台市で開かれた国連の防災世界会議を機に広まった。インクルーシブは英語で「包括的」を意味し、障害者や高齢者など避難困難者を含む全員の安全確保を

る。インクルーシブは英語で「包括的」を意味し、障害者や高齢者など避難困難者を含む全員の安全確保を

め ざ しんさい ししゃ はんすうちょう こうれいしゃ しょうがいしゃ しほりつ ぜんじんこうひ ばい
目指す。震災では死者の半数超が高齢者だったほか、障害者の死亡率は全人口比の2倍だったと
され、その理念は重要度を増している。

おおふなとちゅう ねん ぼうさいじゅぎょう けいぞく こんかい どうこう ぼうさい つと いわてだい ふくとめ
大船渡中では18年から防災授業を継続。今回、同校の防災アドバイザーを務める岩手大の福留
くにひろきょうじゆ きょうどうけんきゅうしゃ わせだだい こやましゅうたろうじゆんきょうじゆ ていあん ぼうさい
邦洋教授と、共同研究者で早稲田大の古山周太郎准教授からの提案で、インクルーシブ防災
と い ふくとめきょうじゆ ちゅうがく じっせんれい いわて めずら
を取り入れた。福留教授によると、中学での実践例は岩手では珍しいという。

こんげつ にち じゅぎょう しょうがいしゃ こうぎ ねんせい にん だいさか まね しんたい
今月18日の授業は障害者らによる講義からスタート。3年生58人は、大阪から招いた身体
しょうがいしゃ じもと しょうがいしゃしせつうんえいしゃ かた しんさいたいけん みみ かたむ
障害者や地元の障害者施設運営者が語る震災体験に耳を傾けた。

くるま りようしゃ おおさかし あべしゆんすけ みやぎけんいしのまきししゅつしん しんさい ねん およ ひなんせいかつ
車いす利用者で大阪市の阿部俊介さん(39)は宮城県石巻市出身。震災1年に及んだ避難生活
ふ がえ ふだん さいがいじ も だ ひん じゆんび うった しょうがいしゃ
を振り返り「普段から災害時の持ち出し品を準備して」と訴えた。障害者のグループホームなど
うんえい じもと にいぬませつこりじちょう しんさいご せいかつかんきょう げきへん にゆういん
を運営する地元の「さんりく・こすもす」の新沼節子理事長は「震災後に生活環境が激変し入院
りしよく よぎ ひと くきょう た しょうがいしゃ そんざい つた
したり、離職を余儀なくされたりした人がいた」と苦境に立たされた障害者の存在を伝えた。

ご ねんせい いどう ししゅう かしよ てんけん ひなんじょうんえい のぞ せいと
その後、3年生は移動に支障がある箇所の点検と避難所運営シミュレーションに臨んだ。生徒は
くるま りようしゃ しかくしょうがいしゃ こうない ある ろうか だんさ かくにん
車いす利用者や視覚障害者と校内を歩きながら廊下やトイレの段差などを確認。シミュレーショ
んでは障害の特性に応じた部屋割りなどを学んだ。学習を終えた森悠斗さん(15)は「障害者
いどう たいへん ひなんじょうんえい たんじかん てきかく はんたん
の移動は大変なことがわかった。避難所運営では短時間での確な判断ができるようになりたい」と
かた
語った。

ひなん たいせつさ つなみ きょうふまな 避難の大切さと津波の恐怖学ぶ

あかざきしょう どう にち ねんせい たいしゅう ぼうさいじゅぎょう しんさい おおふなとしない じたくけんじ おしよ うしな
赤崎小では同22日、6年生を対象に防災授業があった。震災で大船渡市内の自宅兼事務所を失
むらたともひろ みずか さつえい とうじ しゃしん み たか に たす
った村田友裕さん(70)が自ら撮影した当時の写真を見せながら「高いところに逃げれば助かる。

いのち かぞく ゆうじん さいかい じんぞく ひなん たいせつ と
命があれば家族や友人と再会できる」と迅速な避難の大切さを説いた。

どうしょう しんさい こうしゃ ぜんかい ねん げんざいち いてん いんさつ しゃしんさつえいぎょう いとな むらた
同小は震災で校舎が全壊し、17年に現在地へ移転した。印刷と写真撮影業を営む村田さんは、

たかだい に つなみ まち ようす おさ じゆぎょう どうじつ じょうきょう せつめい
高台へ逃げながら津波にのみこまれる町の様子をカメラに収めた。授業では当日の状況を説明

し、震災後は「家がない。仕事もない」と眠れぬ夜を過ごした経験も語った。

ねんせい おお しんさいとうじ さいじ しゅっせいまえ ひと にいぬま ちはや いえ ちか
6年生の多くは震災当時0歳児で、出生前だった人もいる。新沼芽隼さん（12）は「家の近くま

つなみ き き はじ ぐたいてき も ふ かえ
で津波が来たのは聞いていたが、初めて具体的なイメージを持つことができた」と振り返った。

4、5P 被災地報告 福島県沖地震

ゆめ風基金のみなさまへの手紙

だてし とくていひえいりかつどうほうじん りじちよう あべ りへい
伊達市 特定非営利活動法人ボネール 理事長 阿部 理平

はいけい
拝啓

はじめまして。穏やかな年末、お正月でしたが、みなさまにはご健勝のこととお喜び申し上
げます。このたびは、私どもの障がい者支援施設「第2 ボネール」（仮称）の屋根改修工事にあ
たって、多額の救済金をいただいたことに対し厚く御礼申し上げます。資材の調達や業者の手配
に手間取り、着工が遅れてしまいましたが、1月13日に工事請負契約も済み、3月1日には完成
の運びになりましたことを、まずご報告いたします。

こんかい ひさい じょうきょう わたし かつどう りかい こんかい しんさい ふくしまけん
今回、被災の状況や私たちの活動を理解してもらうにあたって、今回の震災（2022. 3. 16福島県

おきじしん い か けんおきじしん ねん こ ひがしにほんだいいんさい
沖地震）＜以下「県沖地震」＞とまもなく12年が来ようとしている東日本大震災（2011. 3. 11）＜

い か だいいんさい ふ か え
以下「大震災」＞に触れざるを得ません。

わたし ひさい しせつ だい み も ぎ ねん いっぽんみんか こうにゆう
私 たちの被災した施設 (第2 ボネール<以下「mimosa」>) は2019年に一般民家を購入、
いちぶかいしゆう おこな ぶっけん ひさいとうじ さぎょうば りよう こうにゆうとうじ
一部改修を行った物件で、被災当時は、ボネールの作業場として、利用していました。購入当時
は、だいしんさい ないぶ いちぶ わ はっせい ていど ひょうめんじょう なん ひがい み
は、大震災にあっても、内部に一部ひび割れが発生した程度で、表面上は、何の被害も見られま
せんでした (だから、こうにゆう わけ
せんでした (だから、購入した訳です)。

けんおきじしん かわらぶき やね おお そんしょう ぜんこく だんたい しえん
しかし、「県沖地震」で、瓦葺の屋根は大きく損傷し、全国からのボランティア団体の支援を
う げんおきじしん おうきゆうしよち ほどこ あまも ふせ きょう す
受け、ブルーシートでの応急処置を施し、なんとか雨漏りなどを防ぎながら今日まで過ごしてき
ました。その後、ほんかくてき ふつきゅう かんが く に ふくししせつ さいがいふつきゅうじぎょう な の
ました。その後、本格的な復旧を考えて、国の「福祉施設の災害復旧事業」に名乗りをあげま
した。その間、かん だてし さいがいしんだん じゅんはんかい ひょうか う さいがいふつきゅうじぎょう げんそく
した。その間、伊達市の災害診断で「準半壊」との評価を受けましたが、災害復旧事業の原則は、
あくまでげんけいふつきゅう くず ぶぶん かわら ふつきゅういがい こうほう かいりょう みと けん まどぐち
あくまで原形復旧であり、崩れた部分の瓦での復旧以外の工法の改良は認めないとの県(窓口)
の、かたくなな しせい か ほじよりつ さんぶんの に じ こふたん のこ
の、かたくなな姿勢は変わりませんでした。しかも、補助率は、 $\frac{2}{3}$ で自己負担が残ります。

わたし かわら やね いちぶ かいしゆう どうていど じしん く かなら おな ひがい
私たちは、瓦屋根の一部を改修しても、また同程度の地震が来れば、必ず同じように被害を
う げんおきじしん ぜいきん づか かんが さい かわらぶき
受けるだろう、そうなれば、税金のムダ使いではないかと考え、この際「瓦葺」からフレキシブ
ルな「トタン張り」にするべく、かんけいきかん おも うった かぜききん とうたつ
ルな「トタン張り」にするべく、関係機関にその思いを訴え「ゆめ風基金」のみなさんに到達し
た次第です。しだい
た次第です。

め てん ご だいしんさい ふつきゅうじぎょう とき あま ふくしまけんみん ねが おも
しかし、目を転じて、その後の大震災の復旧事業をみる時、余りにも、福島県民の願い、想
い いかん おぼ わたし おも ふくしま こうそう しょう
との違和感を覚えるのは、私 だけではないと思います。「福島イノベーションコースト構想」と称
して、きやかく きち だいきぎょう せんたんぎじゆつ とっか とうし かいはつ げんぱつ
して、巨額なドローンやロボット基地、大企業の先端技術に特化した投資、開発などまるで「原発
どうにゆう じ けんそう そうき じもと りかい え そうき おせんすい しょりすい かいようとうき うご
導入」時の喧騒を想起させ、さらに地元の理解を得ないままの汚染水 (処理水) の海洋投棄の動
き、せいふ じっこうかいぎ ほうこく ろうきゅうげんぱつかどう
き、政府の「グリーントランスフォーメーション実行会議 (2022.12)」報告での「老朽原発稼働の
えんちよう げんぱつ しんきかいはつ こがた か かいがい ゆしゆつ とうとうわたし まゆ
延長」「原発の新規開発・小型コンパクト化・海外への輸出」等々私 たちには眉をひそめるよう

じぎょう しんこう
な事業が進行しています。

さいご わたし えぬびーおーほうじん かつどう しょうかい おんれい
最後に、私たちのNPO法人ボネールの活動を紹介して御礼とします。

「ボネール」(フランス語でしあわせの意)は1994年に、当時まだ偏見と誤解の社会的環境のなか、精神障がい者の居場所、安心して話ができる場として、当事者、家族5~6名で始めました。2002年には、もっと障がいを理解してもらおうと、一般市民の方たちと「ボネールを支える会」を発足し、近所のお寺の境内を借りての「お祭り」や、秋には市内の高校生や音楽家による「コンサート」などを開催し、市民のみなさまの協力と理解を広める活動も続けてきました(現在は、コロナ禍のため中止)。

その活動の中、利用者も増え、精神障がいだけでなく、知的、発達障がい、身体障がいの方を含め、現在の新しい「ボネール」に2017年に新築移転し、カフェレストラン「raku-raku」も開店し、今回助成をいただき、完成後に「mimosa」を生活介護事業所として開所する予定となっています。「mimosa」は国際女性デー(3/8)のシンボルで、花ことばが「感謝・友情・思いやり、豊かな感性など」とあり、おもいやりと優しさ、楽しく朗らかな事業所をめざしています。

あらためて、「ゆめ風基金」のみなさまの支援がなければ、改修は不可能だったと実感しています。ほんとうにありがとうございました。

「すごす・つくる・かかわる」多夢多夢舎の「軸」が戻ってきました！

せんだいし たむたむしやなかやまこうぼう しせつちよう さかべ みとむ
仙台市 多夢多夢舎中山工房 施設長 坂部 認

たむたむしやなかやまこうぼう みやぎけんない めずら じぎょう じく す しゅうろうけいぞくしえんびーがたじぎょうしよ
多夢多夢舎中山工房 は宮城県内でも珍しい、アート事業を軸に据えた就労継続支援B型事業所で
す。「すごす・つくる・かかわる」の3つの柱を大切にして、活動しています。

じぎょうないよう りようしゃ か え しょうひん ほんばい
事業内容としては、利用者さんの描いた絵を、ポーチやてぬぐいなどの商品として販売しているほか、

たしやさま せいひん めいし しょうぎょうしせつ ていきよう
他社様の製品や名刺、商業施設のラッピングなどにデザインを提供しています。

たむたむしゃ おこな どう おこな どう
多夢多夢舎には、「すごす」「つくる」を行うアトリエ棟と、「かかわる」を行うカフェ棟があります。2022

ねん じしん むね ひがいう
年3月の地震では、2つの棟がともに被害を受けました。

どう ねん がつ しゅんこう たてもん かべがみ ひがいう
アトリエ棟は2021年12月に竣工したばかりの建物でしたが、壁紙などが被害を受けました。

しゅんこう ねん むね とく ひがい おお しょっきたな れいぞうこ うご しょっき ひひん わ
竣工10年になるカフェ棟のほうは、特に被害が大きく、食器棚や冷蔵庫が動き、食器・備品がたくさん割

しゅくい かべがみ はい
れました。漆喰や壁紙にもたくさんのヒビが入りました。

じしん つぎ ひ りようしゃ こわ はなし りようしゃ ねん
地震があった次の日、利用者さんと「怖かったね」という話はしましたが、利用者さんは2011年の

しんさいいこう じしん な お つ ようす ようす しょくいん ほう たす
震災以降、地震には慣れっこで落ち着いた様子でした。その様子には、むしろ職員の方が助けられまし
た。

じつ たむたむしゃ じぎょう ちから い はじ ひがしにほんだいしんさい しんさいご しょくいん
実は、多夢多夢舎がアート事業に力を入れ始めたきっかけは、東日本大震災でした。震災後、職員が

いそが りようしゃ いっしょ たの じかん す じき
忙しくなってしまう、利用者さんと一緒に楽しい時間を過ごすことがおろそかになった時期がありました。

これではいけないと、創設時から大事にしてきた、うたうこと、おどること、あそぶことを取り戻そうと始まっ

たのがアート事業だったのです。そういう意味では今回の地震も、大きな被害はありましたが、きっとこれ

をバネにして、大きなジャンプができるのではないかと考えています。

かぜききん しえん う たてもん しゅうぜん おこな たむたむしゃ だいじ あんしん
「ゆめ風基金」の支援を受け、建物の修繕を行うことができ、多夢多夢舎が大事にしている「安心して

すごすこと」「自由に作品を作ること」ができるようになりました。また、カフェ棟も修繕が終わり、お客さん

まね こうりゆう きかい つく たてもん しゅうぜん たむたむしゃ かつどう じく
を招いて、交流の機会をたっぷりと作っています。この建物が修繕できたことは、多夢多夢舎の活動の軸

と もど
を取り戻すことにつながりました。

これから「すごす・つくる・かかわる」を大事にしながら、たくさんのハッピーを皆様にお届けしたいと思
っております。

しょうがい しみん こえ しゃかい とど ねん キ ッ シ ャ ン の ほんめい
障害 ある 市民 の 声 を 社会 に 届け よ う - 2023 年 キ ッ シ ャ ン の 初夢 -

きしだ のりこ プロフィール (ペンネーム キッちゃん)

しょうがくさんねん じもと しょうがっこう しかくしょうがいしえんがっこう ほんにん いし てんこう
小学3年のとき、地元の小学校から視覚障害支援学校に本人の意思にかかわらず転校
させられる。お琴の先生になるように薦められたが、あまりにも才能がなく練習もし
なかつたので先生から弟子になることを断られる。健全者が学ぶ大学に入学し青春を
謳歌する。腰かけ気分銀行に入社し、30年間も電話交換手として居座る。現在、公
立高校の福祉コースで、非常勤講師として視覚障害者の介助について講義している。

しょうがつ ふつか こんな ゆめ かん ゆめ
ことし正月の二日、こんな夢をみました。とてもリアルな感じの夢でした。

はなばたけ ま なか けんぽう じょう じょうぶん か であ おお たか そら うえ
お花畑の真ん中に憲法9条の条文が書かれたプラカードが出ていました。青く高い空の上で
おひさまがニコニコ笑っています。ピースマークのTシャツや思い思いの恰好をした車いすユー
ザーが大きな看板を先頭にゆっくり歩いていきます。看板には「憲法9条を忘れるな。78年前
の戦争を忘れるな」「憲法は為政者の権力暴走を防ぐためのもの」と書かれています。

たいこ うた おど たの おも おも きも ひょうげん
太鼓をたたいたり歌ったり踊ったりしながら楽しそうに思い思いの気持ちを表現しながらゆっ
くり歩いていきます。ハイビスカスのレイを巻いて手話で平和の歌をリズムよく町を歩いていき
ます。大きなキャンバスに絵を描いている人たちがこちらを向いてピースサインを送ってきました。
た。

はくじょう しかくしょうがいしゃ もうどうけん おも きょういく ふくし よさん
白杖をもった視覚障害者たちが盲導犬のベストにそれぞれの思い、「教育や福祉に予算をまわ
して」「防衛費はもういらぬ。武器を売るより平和の備えを進めよう」「平和でないと、私たちの
しごと ある
仕事ができなくなる」とアピールしながら歩いていきます。

いえ しょうがいしゃ なか む せんそう げんこう えすえぬえす
家にいる障害者たちはベッドの中でパソコンに向かって「戦争はいやだ」という原稿をSNS
に投稿しています。ヘルパーの男性に代筆してもらっている身体障害の人が机にむかっています。

がいしゅつ しょうがいしゃ えき まえ わか だんせい せんそう ほうりつ
外出できる障害者は、駅やデパートの前で若い男性ボランティアに「戦争につながる法律をつくら
ないで」というプラカードをもってもらいながら、初老の男性に声をかけています。高齢の女性
が「戦争よりいまは地球環境のほうが大問題でしょ」と語りかけています。「日本国憲法は我らの
希望」と書かれた大きなプラカードを、お爺さんやお婆さん・中年のサラリーマンたち・どこに
でも居るおばさん・おじさん・ヤンキー・こどもたち……が支えています。

め さ まいつきこうどく しんぶん び ねん がつごう み
目が覚めて、毎月購読している新聞『うずみ火』2023年1月号を見てびっくり。

まず少し引用しますと、

あいてこく きち はかい てきき ち こうげきのうりよく ほゆう する あんぜんほしょうかんれん
『相手国のミサイル基地などを破壊する「敵基地攻撃能力」の保有を記した安全保障関連

さんぶんしょ かいてい がつ にち かくぎけつてい れきだい せいけん せんごいつかん けんじ せんしゅほうえい
3文書の改定が12月16日、閣議決定された。歴代の政権が戦後一貫して堅持してきた専守防衛

くうどうか あんぼせいさく だいてんかん ほうえいかんれんよきん ばいぞう めいき ぐんかくぞうぜい
を空洞化させる安保政策の大転換だ。さらに防衛関連予算の倍増も明記されるなど、「軍拡増税」

すす
が進められようとしている。』

あんぼせいさく だいてんかん こっかい しんぎ かくぎけつてい き
安保政策の大転換にもかかわらず、国会で審議もせず、閣議決定で決める。びっくり、どっ

せんそうじゅんび きょうふ しんばい こわ なみだがお しんばいがお
きり、えー戦争準備がはじまるのか？ どうしよう、恐怖・心配・怖い・涙顔、心配顔…。

げんぱつはんたいうんどう おこな ひとびと すがた げんぱつ でんき た まちい ひと
ふと、原発反対運動を行う人々の姿「原発いらぬ電気は足りている」と町行く人たちに

かた か ある しんばい か
語り掛けるようにゆっくり歩いていく。そうや、ぐずぐず心配ばかりしてもなにも変わらない。

しょうがい しみん こえ じぶん おも しゃかい とど
障害ある市民として声をあげよう。自分の思いを社会のみんなに届けよう。プラカード・スピ

なか えすえぬえす つか とうこう しんぶん だいひつ
ーカー、そうだベッドの中からSNSを使って投稿もできる。新聞やラジオに代筆してもらっ

とうしょらん とうこう えき ひと あつ おも
て投書欄に投稿できる。駅や人がたくさん集まる場所で、それぞれの思いをプラカードや

おうだんまく か こうどう さんか わたし はくじょう も ひとり さんか
横断幕に書いて立つスタンディング行動に参加する。私は白杖を持ち一人で参加しているが

「障害者はおことわり」なんて言われたことはない。国会前に車いすで「憲法 9 条 忘れるな」「閣議決定だけで決めるな」「教育や福祉に予算を回せ」「防衛費はいらない」「税金これ以上払えない」と大声で叫ぼう。手話で平和の歌をジェスチャーしながら銀座通りや大通りを歩こう。白杖や盲導犬と「武器で平和はつukれない」と声をあげながらデモしよう。障害ある市民にとって戦争は大の苦手だが、平和を願い訴えることはできるのだ。

8P 応援団からこんにちは！ vol.4

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。

そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集して下さる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

NPO 法人たからばこ（千葉県南房総市） 理事長 武田 由美

私たちは、発達障がい児の親と支援職が中心となって、発達障がいなどの障がいを持つ子ども達が自分らしく伸びやかに生きられる地域社会を作るための活動をしています。2016年12月からは放課後等デイサービス「みんなの森」の運営も行っていきます。

ゆめ風基金との出会いは2019年9月の房総半島台風で被災した時のことでした。当法人の

建物の屋根と窓が大きく破損して、全室水浸しの半壊状態となり、茫然としていた時に、市役所

から被害の状況を聞きつけたゆめ風基金理事の宇田川さんが訪ねてきてくださったのでした。

自宅もまだ停電が続いている状態の中で、仮営業場所の選定や引っ越し、保険会社や修繕工事

業者とのやり取りなど気の遠くなるような作業に明け暮れる日々光が差した瞬間でした。

その後ゆめ風基金やご紹介いただいた A A R ジャパン（難民を助ける会）からのご支援、会員

さん、支援者の方からのご寄附で修繕工事を施し、被災から4か月後の1月には元の建物で事業

を再開することができました。ゆめ風基金には心から感謝しております。

今回は私たちが支える側に回ればと応援団に加わらせていただきました。どうぞこれからも

よろしく願いいたします。

N P O 法人ワークショップひなたぼっこ（熊本県天草市） 理事長 山中 権太郎

私たちは、熊本県の天草市で活動を行っています。天草市は海に囲まれた島国で、主に漁業

が盛んに行われています。また、有名人としては歴史で皆様も一度は耳にしたことがある天草四郎

がいます。その天草市で障がいを持たれている方ひとりひとりが地域の中でたくましく豊かな

生活を築けるように、皆がお互いを尊重して寄り添い実現していくことを理念として活動を行っ

ています。

具体的には就労継続支援や放課後等デイサービス、相談支援を行っています。

今年度から自団体だけでは活動に限界を感じ、地域の方にも協力してもらうことで包括的に

障がいを持たれている方を支援して行きたいという想いから「ぽかぽかハウス」プロジェクトを

立ち上げました。「ぽかぽかハウス」プロジェクトでは、主に地域食堂を開催しており、食事を通

して地域コミュニティを作り上げたいと考えています。これにより、障がいを持たれている方と

地域の方との交流の機会が増え、障がいを持たれている方の困りごとなどを地域全体の問題とし

て知ってもらい、解決していけると思っています。

ゆめ風基金との繋がりは、2020年7月に起こった熊本県集中豪雨で、私どもが被災した

際に支援していただいたことがきっかけとなります。当時、私どもの事業所は約1mの浸水の

被害にあい、車両やコピー機といった電化製品、テーブルや椅子など、ありとあらゆるものが使えなくなってしまう、床も泥だらけで何から手を付けていいのか途方に暮れる状態でした。職員や利用者、ともにやる気が起きずにいましたが、様々な方からお声掛けやご支援、お手伝いなどをしていただき、また頑張ろうと復旧に向けて動き出すことができました。そのような中で縁もゆかりもなかったゆめ風基金からご支援の申し出をいただき、とても嬉しく感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これからは「ゆめ風応援団」として、同じような災害が発生した際に、情報共有や可能な限りの支援活動を行いたいと思っています。「ゆめ風応援団」の一員として、支援の輪の一端を担えるように頑張っていきたいと思っています。

9P BCPについて

ゆめ風版BCP 事務局 長 八幡 隆司

福祉事業所のBCP（事業継続計画）の策定が義務付けされ、策定期限まであと1年と迫ってきました。昨年に厚生労働省のひな型の解説動画を作ったお話をしました。しかし、もっと簡単に作れるBCPはないのか、という声を聴き、昨年6月に「ゆめ風版BCP」を作りました。ゆめ風版BCPは平時の備えを書く8枚のエクセルシートと、緊急時の対応5項目とに分かれます。緊急時の5項目については「災害時スターターキット」と名をつけ、職員が災害時に何をすればよいかをA4用紙にわかりやすくまとめて収納しておくこととしています。

●BCPシミュレーション

BCPを作成しただけで本当に災害時に役立つのか検証ができません。そのためゆめ風基金で

はBCP検証のため、災害を想定して職員の動きをシミュレーションする「BCPシミュレーション」を昨年10月に作成しました。「生活介護事業所」を仮のモデルとし、みんなで一緒に考えられるものをまず作り、昨年11月に25人ほどの参加者で実施してみました。その後、各事業所で実際に使いこなすために「通所事業所」や「ヘルパー派遣事業所」など部門ごとに災害時にこんなことが起きた時にどうするかという設問を10から13ほど作り、対応を考えてもらうようにしました。

●避難所運営シミュレーション

ゆめ風基金では、他にも一般の避難所でどのように障害者の合理的配慮を行うのかを考える「避難所運営シミュレーション」を8年前に作成し、講演会などで実施してきました。しかしコロナがまん延する中、WEBを利用した講演ばかりになり、対面で実施することが難しくなりました。そこでWEB上でもこの「避難所運営シミュレーション」ができないかと考え、資料を一新するとともに、WEB上でのグループリーダーを増やすため、リーダー用マニュアルを作り、今ではWEBの講演でもこの「避難所運営シミュレーション」ができるようになりました。

ゆめ風基金では障害者と一緒に防災を学べる取り組みを色々と考えホームページに掲載しています。ここに書いたことについてはホームページの「障害者防災」コーナーをご覧ください。

BCPにおける災害時スターターキット

1.施設の安全確認と使用 ・チェックする項目、使用許可の判断基準

2.本部立ち上げ ・役割分担の確認 ・備蓄物資の確認と使用、不足物資の調達について

会議の持ち方

3.安否確認 ・電話が使えるときと使えないときとに分けた対応 ・確認すべき内容

4. 福祉避難所^{ふくしひなんじょ} ・ 開所手順^{かいしよてじゆん} ・ 運営内容^{うんえいないよう} ・ 閉鎖基準^{へいさきじゆん}

5. 各事業の継続方法^{かくじぎょう けいぞくほうほう} ・ 事業の中止、再開の基準^{じぎょう ちゅうし さいかい きじゆん}

10p **カンパを頂いた団体**^{いただ だんたい} 2022/10-2022/12

お店に募金箱^{みせ ぼきんばこ}を置いてくださったり、街頭募金^{がითうぼきん}やバザー、イベントで集めてくださったりしています。^{あつ}

本当にありがとうございます。もしも記載漏れ^{きさいも}がありましたら申し訳ありません。^{もう わけ}

10/14 いこらー^{きしわだし}(岸和田市)

10/19 C I L おのみち^{しーあいえる おのみち}(尾道市)、らんがく舎^{しや よこはまし}(横浜市)

10/20 ポポの家^{いえ いたみし}(伊丹市)

10/21 ルーテル作業センタームゲン^{さぎょう まつやまし}(松山市)

10/24 ほっと はあと

10/27 C I L 立川^{しーあいえるたちかわ たちかわし}(立川市)、常副寺^{じょうふくじ おおさかし}(大阪市)

11/1 Tea for two^{ていー ふおー とーー よつかいどうし}(四街道市)

11/2 ネット大分^{おおいた おおいたし}(大分市)

11/22 土っかりゆのん^{ど さっぽろし}(札幌市)

12/2 共に生きる^{とも い} 街づくりセンターかがし座^{まち ざ かすかべし}(春日部市)

12/13 京都聖マリア教会婦人会^{きょうとせい きょうかいふじんかい きょうとし}(京都市)

12/15 そうそうの杜^{もり おおさかし}(大阪市)

12/16 でんでん虫の会^{むし かい かとうし}(加東市)

12/17 日本聖公会大阪教区婦人会^{にほんせいこうかい おおさかきょうく ふじんかい おおさかし}(大阪市)

12/19 ^{ひらかたきょうかい ひらかたし}カトリック枚方教会(枚方市)

12/21 ^{とよなかとも かい とよなかし}豊中友の会(豊中市)、^{かわにしし とくゆうじ みなみまつらぐん}ミニヨンペットショップ(川西市)、^{とくゆうじ}得雄寺(南松浦郡)

12/22 ^{かわごえし}フジテクノ(川越市)、^{しぶやく}アヒルストア(渋谷区)、^{じりつせいかつ}いわき自立生活センター(いわき市)、^{せいしんちゅうがっこう}清心中学校・
^{せいしんじょしこうとうがっこう くらしきし}清心女子高等学校(倉敷市)

12/23 ^{がっこう しぶやく たびだち}カタログハウスの学校(渋谷区)、^{かい いくのく}出発のなかまの会(生野区)

12/26 ^{おおさかせい きょうかい おおさかし にっぽうし き とよなかし}大阪聖ヨハネ教会(大阪市)、^{にっぽうし き とよなかし}日邦紙器(豊中市)

12/27 ^{みなみぼうそうし}たからばこ(南房総市)、^{きくがわし くさ みかぞくかい さっぽろし ぬヴェー ー るあいとく}ネットきくがわ(菊川市)、^{くさ みかぞくかい さっぽろし}草の実家族会(札幌市)、^{ぬヴェー ー るあいとく}ヌヴェール愛徳
^{しゅうどうかい ふしみく}修道会(伏見区)

12/28 ^{きたすもとほいくえん かどまし}北巢本保育園(門真市)

12/29 ^{ほうりつじむしょ おおのじょうし}J-pal(大阪市)、^{ほうりつじむしょ おおのじょうし}なかのきみよし法律事務所(大野城市)

12/31 ^{つぼいのりおしょうてん なごやし}坪井令夫商店(名古屋市)

9P ^{じむきょく うご}事務局の動き 2022/10~12

^{まいしゅうげつようび}★毎週月曜日：事務局会議★^{まいしゅうきんようび}毎週金曜日：^{しんほーむべーじうちあわ}新 H P 打合せ

10/3 ^{がくえんじんけんがくしゅう}むくのき学園人権学習 (長崎・阿部)、^{ながさき あべ すてつが}stepえどがわ取材 ^{しゅざい}

10/5 ^{びーしーびー}B C P (事業継続計画) ^{じぎょうけいぞくけいかく} ^{けんきゅうかい}研究会

10/11 ^{じえいぼあーど}JV O A D (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク) ^{しえんだんたい} ^{うちあわ}打合せ

10/12 ^{さい}ポジ祭 (被災障害者⇔関西ポジティブ生活文化交流祭) ^{ひさいししょうがいしゃ かんさい} ^{せいかつぶんかこうりゅうさい} ^{かいぎ}会議、^{だいにほんいんさつこうえんうちあわ}大日本印刷講演打合せ

10/13 ^{おーえすえぬ}O S N (大阪災害ネットワーク) ^{おおさかさいがい} ^{せわやくかい}世話役会

10/17 ^{しずおかしょうがいしゃきょうかいほうもん}静岡障害者協会訪問

- 10/24 おおさかさいがいしえんれんけいかいぎ 大阪災害支援連携会議、ごうへんしゅうかいぎ ゆめごよみ 101号編集会議
- 10/25 ふかい あまのくらし部会（あまがさき 尼崎）こうえん 講演
- 10/26 びーしーびーけんきゅうかい B C P 研究会
- 10/27 かどまこうえん 門真講演
- 10/28 さいしゅってんしやせつめいかい ポジ祭出店者説明会
- 11/1 おおさかしじゅうぎょういんろうどうくみあいうちあわ 大阪市従業員労働組合打合せ
- 11/7 おえすえぬせわやくかい O S N 世話役会
- 11/9 いくのくこうえんうちあわ 生野区講演打合せ、ちゅう 中プロ（おおふなと 大船渡）うちあわ 打合せ、ごうへんしゅうかいぎ 101号編集会議
- 11/10 かながわ 神奈川大学学生さんだいがくがくせい 聞き取り調査きと ちようき 調査
- 11/17 しょうがいしやおおさかれんらくかいぎほうもん 障害者大阪連絡会議訪問
- 11/17～18 おおふなとちゅうがくせい 大船渡中学生プロジェクト
- 11/18 ごうへんしゅうかいぎ 101号編集会議、いりょうふくしほうさい 医療福祉防災ネットワークこうえんさんか 講演参加
- 11/20 おかやまこうえん 岡山講演
- 11/22 びーしーびーけんきゅうかい B C P 研究会 さいじぜん ポジ祭事前イベント
- 11/23 さい ポジ祭
- 11/24 だいにっぽんいんさつろうそこうえん 大日本印刷労組講演
- 12/1 ちゅうがくせい 中学生プロジェクト（せつちにちゅう 摂津二中）
- 12/3～4 みのおじんけん 箕面人権イベント
- 12/8 ちゅうがくせい 中学生プロジェクト
- 12/9, 27 おえすえぬせわやくかい O S N 世話役会

12/14~15 ^{つうしん} ^{ごうはっそう} 通信101号発送

12/19 ^{ごうへんしゅうかいぎ} ^{りじかい} 102号編集会議、理事会

12/20 ^{ようえんごしやぶかい} ^{にしくこうえん} OSN要援護者部会、西区講演

12/23 OSN 打合せ

11P ^{かいけい} ^{きゅうえんきん} 会計、救援金

^{べっし}
別紙

12P ^{へんしゅうこうき} ^{いちらん} コメント、編集後記、ネット一覧

^{かぜ} ^{かぜ} ^{ろっこう} ^{かくち} ^{かぜ}
そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2022.10-2022.12

▼^{いま} ^み ^{かぜ} ^{つく} ^{たいせつき} ^{かん} ^{ならし}
今こそ「ゆめ」を見る「風」を作る大切さを感じます（奈良市）

▼^{じぶん} ^{せいかつ} ^{ひがしおおさかし}
自分の生活ができないのでちょっとしんどいです（東大阪市）

▼^{さい} ^{すこ} ^{あいだおうえん} ^{まえむ} ^き ^{よこはまし}
90才になります。もう少しの間応援できますように前向きに気をつけます（横浜市）

▼^{かぜ} ^{はじ} ^{きふ} ^{ねが} ^{おだぐん}
ゆめ風に初めての寄付です。よろしく願います（小田郡）

▼^{かぜ} ^{げんば} ^{いきづか} ^{かん} ^{たの} ^{かわさきし}
「ゆめ風だより」は現場の息遣いが感じられます。楽しみにしています（川崎市）

▼^{じょうねつ} ^{あい} ^{かぜ} ^つ ^こ ^{かん} ^{ふちゅうし}
たくさんの情熱と愛がゆめ風には詰め込まれていると感じます（府中市）

▼^{しゅじゅつ} ^{せいがん} ^{しょうがく} ^{つづ}
ガン手術より生還しました。これからも少額ですが続けます。

▼^{せいかつ} ^{きゅうくつ} ^{うえ} ^{だれ} ^{たす} ^{たが} ^{ささ}
生活はどんどん窮屈になっていますが、上は誰も助けくれません。お互いに支えあうしかな

^{じだい} ^{かな} ^{よこはまし}
い時代。悲しい（横浜市）

▼^{ごう} ^{ページ} ^{とど} ^{きゅうえんきん} ^よ ^{かつどう}
100号おめでとうございます！3Pのお届けした救援金のページ読んで、活動がすごいなあと

おも
思いました（豊川市）

▼いつも、おたよりをありがとうございます。家族と一緒に読ませていただいています。みんなで、

あたた しょうがつ むか いばらきし
暖かくお正月を迎えられますように（茨木市）

▼作業所に通うようになって3年を迎えました。働き続けてこられたことに感謝しつつ、わずか
ですがお送りします（大阪市）

▼永さんの大ファンだった母が8月に亡くなりました。母からの最期の気持ちとして寄付させてい
ただきます（中野区）

▼「東北」へ（他数名）

▼100号すごいですね。永さんのラジオで「ゆめ風に」仲間に入れていただきました。ご縁を大切
に、皆様と共にすごしてゆきます。ありがとうございます（所沢市）

▼ギャラリー花の四季（きせつ）で展示販売会。売り上げ一部を寄付させて下さい（丹波市）

▼一年過ぎるのが年をとると早いと感じます。来年には一月で81才になりますが少しですが送り
ます。お元気で！（小金井市）

▼いつもさまざまなことを教えてもらっています。山田太一さんのメッセージ、心に残りました
（和賀郡）

▼いつになったら本当の意味での平和がくるのだろと心を痛めてます。ニュースで流れるむこう
にはどれだけの犠牲があるのか（石岡市）

▼「どこか」を手繰り寄せるのエッセイが心にしみて、ほんの少しだけですが、手繰り寄せるお
手伝いになれば（岐阜市）

▼ゆめ・ゆめ・ゆめ ゆめを持ちたい暮らしがゆめかな（静岡市）

▼^{ことし}今年のくりは^{ほうさく}豊作で^{かさま}笠間のくりおいしいよ！（笠間市）

▼^{かいせん}ウクライナ開戦の^{ふつかまえ}2日前、^{まどご}カフェの窓越しに^{どくしょ}コーヒーと^{たの}読書を^{じよせい}楽しむ女性の^{すがた}姿。ロシアの^{しんこう}侵攻を

^{つた}伝えるニュースとのギャップに、^{にちじょう}日常と^{ひにちじょう}非日常は^{かみひとえ}紙一重と^{かん}感じました（さいたま市）

▼^{かんしゃ}感謝と^{えがお}笑顔で^{いちにちいちにち}一日一日を、^{ひと}人にも^{もの}物にも^{じぶん}自分にも^{せいじつ}ていねいに^む誠実に^あ向き合っ^{おも}ててゆきたいと思っ^{おも}て
います（名古屋市）

▼^{ちいき}地域では^{ぶんりきょういく}分離教育に^{たい}対し、^{こころ}心を^{いた}痛めています。尾上^{おのうえ}さんの^{つた}エッセイを^{よしのぐん}伝えます（吉野郡）

▼^{かぜ}風、^{たの}楽しみに^{はいどく}拝読。87才（三浦市）

編集後記

^{みなさま}皆様が^か書いて^{わたし}くださる^{じむきょくいん}コメントに^{はげ}私たち^{くだ}事務局員を^{ことば}励まして^{おお}下さる^{なみだ}言葉が多くて、^で涙が出そう
になります。いつもありがとうございます。今^{いま}のところ^{じむきょくいん}事務局員は^{げんき}なんとか^{ぎょうむ}元気に^{こな}業務をこな
しています。今年^{ことし}もどうぞよろしく^{ねが}お願いします。（ながさき）

ゆめ風ネットワーク連絡先[FAX は 06-6321-5662 迄]

さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 三条 0256-34-2448 JDS(東京)03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 埼玉 048-738-4593 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 0592-73-6930 滋賀 077-543-2844 JCIL(京都)075-671-8484 奈良 0745-42-2919 和歌山 073-472-6731 伊丹 072-779-1771 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365 徳島 088-679-8225 岡山 086-697-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9550 やまぐち 0833-76-0550 福岡 094-962-6003 大分 097-597-5315 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 諫早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329 みやざき 0985-31-4800 かごしま 0994-63-8839 沖縄 0988-90-4890

